

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

花めぐり

サルスベリ、シマサルスベリ

夏の炎天下にピンクや紅、また白色の花を咲かせるサルスベリは中国原産の落葉高木です。枝先に、しわしわとした6片の花弁を持つ花が、群がり咲きます。薄褐色の木肌はツルツルとして木登り上手な猿も滑るというので、この名がつけました。

また「散れば咲き 散れば咲きして 百日紅 加賀千代女」の句のように、夏から秋風の吹く頃まで、花期の長いことから漢名は百日紅(ヒヤクジツコウ)と言い、この名で呼ばれることもあります。

林試の森の東門、また水車門から芝生広場に至る道には、シマサルスベリの木が白い小さな花を咲かせています。サルスベリの花と比べると何とも地味ですが、この木は花よりも幹の美しさが印象的です。薄褐色の表皮が剥げると、下から白い木肌が現れます。

(広報委員 河原マサ江)

サルスベリ



シマサルスベリ



盆踊りを楽しむ皆さん

荏原第一地区の区民まつりが7月19日(土)の午後1時から7時まで後地小学校で開催されました。今年の当番町会は、小山1丁目、小山2丁目東部、小山2丁目西部、荏原1丁目町会です。

当日は午後1時に開会式が行われ、区民まつり実行委員長の三瓶会長、濱野区長、会場の石出校長が挨拶。また、管内14町会会長も列席し、大井競馬場のマスコットキャラクターの「うまたせ君」を紹介しました。校庭には、当番町会のほか荏原第一、第六中学校の生徒、PTAによる模擬店、ふれあい健康塾などのブースが並びました。美味しい食べ物を買って楽しむ人、「片足立ち」を体験し、自身の健康チェックをする人など、活気に溢れていました。

プール前では、ステージ発表が行われました。後地小学校5、6年生による「後地ソーラン」など、たくましく元気いっぱいのパフォーマンスが披露されました。体育館では、地区委員会主催の「子どもまつり」でにぎわいました。射的など、大人も子どもも楽しめるゲームが充実していました。午後5時30分からは、お待ちかねの盆踊り。品川音頭の曲に、すずめ太鼓の皆さんの力強い太鼓の音色が響き、踊り手は輪になってやぐらを囲みました。提灯の明かりが灯る中、会場は一段と華やかに彩られました。

地域の夏の風物詩!

区民まつり 後地小学校で大盛況

街角ウォッチング

旧中原街道供養塔群

旧中原街道が桐ヶ谷通りと交差する四つ角を、平塚橋方向に進むとすぐ、荏原1丁目15番の「飯泉ハイツ」の入口に、目立たないけれど4基のお地蔵さまが並んでいます。いずれも江戸時代の造立で、品川区の有形民俗文化財に指定されています。

区の教育委員会が記した案内板によると、これらの供養塔群は、かつては現在地の北方約10メートルの辻に安置されていましたが、昭和38年の区画整理の際に、この地に移されたそうです。

4基の供養塔のうち、中央のひとときわ大きい石造地蔵菩薩は、高さが1メートル90センチ。造立年代は不明ですが、台石に刻まれている17の村名や形態から見て、江戸中期と推測されるそうです。また、向かって右の地蔵菩薩は延享3年(1746)、寒念仏供養のために造立されたもの。左手奥の馬頭観音は元文元年(1736)の造立で、そのころ、戸越本村に馬持講(うまもちこう)があったことを示しているそうです。その前にある聖観音は石造の墓碑で、貞享年間(1684~87)に建てられたもの。

この辺り一帯では、江戸中期から後期にかけて、庶民の間で様々な信仰が盛んに行われていたことがうかがえますね。

(広報委員 青木富代)



「社会を明るくする運動」

「パルム」で啓発。パレード

「社会を明るくする運動」街頭広報活動が7月4日(金)に実施されました。

この運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。7月は強調月間として、保護司会や民生委員、町会等、26団体が連携しました。今年から新たに青年ボランティア団体「品川BBS会」も

「第7回品川子育てメッセ2014」が7月4日(金)に行われました。メッセとは区内の子育て情報を一堂に集めた見本市で、今年はスクエア荏原での初開催でしたが、来場者は約2600人。



公園マップに興味津々

スクエア荏原で子育てメッセ

パレードする



濱野区長と三瓶会長が先頭に「パルム」

加わりました。武蔵小山駅前では、保護司会会長の吉田英一さんの開会のことば、同運動の推進委員である濱野区長が挨拶。その後は、濱野区長を先頭に「パルム」

◎各ご家庭に配布しております。1部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は、9月22日(月)発行の予定です。